

心豊かに
生涯学習



中之町コミセンだより

第261号

令和2年度市主催講座



「ハワイアンキルト」&「クラフトテープで小物作り」が開講式



6月24日, 第2回目の講座開催
3密を避けての分散授業を行っています。



3月~6月, コミセンの玄関先に
作品をデモ展示。(ハワイアンキルト)

コロナ禍のコミセン臨時休館で、5月開講の出鼻を挫かれた形になっていた市主催講座ですが、6月に入って10日(水)に「ハワイアンキルト」、16日(火)には「クラフトテープで小物作り」の2つの講座が元気にスタートを切りました。

「ハワイアンキルト」は今年度から始まる講座で、講師は奥原 深雪さん。今年度受講生は10名。

「クラフトテープで小物作り」は2年目の講座で、講師は原 晶子さん。今年度受講生は16名。

両講座とも1階研修室(図書室)をメイン会場としていますが、開講式は3密を避けて2階の集会室で開催。2回目以降は1階の会場2か所を使っての分散授業となります。

参加者の皆さん一様に、「待っていたんだよ。楽しいね!面白いね!」とトーンは上がりっぱなし。

新型コロナ感染拡大防止の対応が煩わしいかも知れませんが、頑張っけて乗り切りましょう。



6月16日, 集会室いっぱいを使って
開講式を開催しました。



昨年度の生涯学習発表会, 沢山の作品を
展示されました。(クラフトテープで小物作り)

令和2年度 利用団体総会を開催

コロナ禍, 「萎縮はしないが, 慎重な講座運営」を討議



6月24日(水) 中之町コミセン利用団体による令和2年度総会が開催されました。例年は5月中旬に全館の清掃活動を兼ねて開催されていましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策で臨時休館していましたので1ヵ月遅れの開催となりました。

3密を避けて、2階集会室で車座になっての短時間の総会でしたが、「1ヵ月半の臨時休館を経て、コミセンに来るのを楽しみにしておられる地域の方々が多いということが改めて分かった。コロナ禍ではあるが必要以上に萎縮するのではなく、賢く慎重な講座運営を心がけよう」ということで意思一致。代表は引き続き卓球の坂井正道さんをお願いしました。1年間宜しくお願いします。



地域の文化史を訪ねて

「深町太鼓踊り」(後編)



太鼓踊りが深町の盆踊りを盛り上げます。



平成27年, 新倉町大須賀神社で行われた市内の奉納踊りの
一つとして参加。子どもたちが頑張ってくれました。

(6月1日号から続く) 高度経済成長期を経て、深町でも若者の都市部への流出が進み、青年団が担ってきた太鼓踊りも引き継ぐ人材が減り、少人数での寂しい奉納を続けた時期もあったそうです。当時、三原市から、「市無形文化財」登録の働きかけがあったそうですが、「(地域として) 踊り続けることが出来るかどうか自信が持てない…」ということで断ってこられました。

転機は深小学校の小林龍一郎校長(平成9年~12年在校)が、「素晴らしい地域の文化芸能なのだから、子どもたちに是非とも教えてもらいたい」という申し出からです。深小高学年の総合学習の一環として据えたところ、深町に新たに住居を移された保護者の皆さんも興味を示され、地域ぐるみでのバックアップが徐々に整うという中で、太鼓踊りは華やかさを取り戻しました。

こうした事を背景に従来の青年団を一旦解散し、少し壮年になった方や小中学生も含めた町内会組織で、太鼓踊りなどの伝統行事を継承して行こうという話も進みました。これが現在の「壮青会」と、「太鼓踊り保存会」の始まりです。

「壮青会」の活動の場は多岐にわたりますが、花形はやはり太鼓踊りです。年初めの「新春ふれあい広場」に始まり、盆踊りなど地域の主要な行事で踊りを披露されています。平成27年には三原市無形文化財として登録されました。築城450年祭のパレードにも出演され、「あゝ、深の太鼓踊りは続いていたんだ、なつかしいね…」とおっしゃる市民も多かったそうです。

今後も深町、三原市の財産としての継承を、宜しくお願いしますね。